

平成 30 年度「第 29 回廃棄物資源循環研究発表会」 市民展示、市民フォーラム報告

2018年9月12日～14日、名古屋大学にて第29回廃棄物資源循環学会研究発表会が開催されました。「しみん協働と3R」をテーマに、市民展示では東海地方の13の市民・団体等の方が日頃の活動内容を紹介されました。市民フォーラムでは名古屋市非常事態宣言を出して危機を乗り越えられた、元名古屋市長の松原氏の基調講演と、名古屋市をバックアップした中部リサイクル運動市民の会の永田氏からの報告後、市民展示の出展団体の方に、展示内容・活動内容を報告いただきました。今回は、「さくらや名古屋店」と「おかえりやさいプロジェクト」の活動内容をご紹介します。

第 29 回研究発表会

地域のおさがりネットワークを繋ぎたい

「学生服リユース shop さくらや」名古屋店 代表 つかもと けいこ
塚本 敬子

■私が学生服のリユースショップを 始めようと思ったきっかけ

幼稚園の制服を準備するお母さんの大変さを目の当たりにしたことでした。わが子が通っていた園にはバザーがあり、そこで制服はお値打ちに購入することができましたが、卒園生から寄付してもらった制服は限りがあります。来年度入園するお子さんをもつお母さんは、制服を購入するために、朝早くから小さな子どもを連れてバザーの列に並ばなければなりません。そして、それは年に一度のチャンス！もちろん、在園時のお母さんも狙っています。そうしたバザーに、委員としてかわり、制服を気軽に買うことができ、子ども達が快適に園生活、学校生活を送ることができるシステムがあったらいいのに…と感じていたときに、テレビ番組で「学生服リユース」に出会いました。

■店舗オープン

店舗オープンのためには、多くの学生服を集めなくてはなりませんでした。学生服のリユースは馴染みがなく、宣伝は自分で配る手書きのチラシだけ。それでも新聞に掲載してもらったり、口コミなどで徐々に学生服が集まってきました。



写真1 学生服リユース shop さくらや 名古屋店。在庫は4,000点を超え、今までに500点ほどをリユースの輪に繋ぐことができました

子どもに「高学年になったら、子ども部屋として使っていいからね」と約束していた部屋も、学生服で埋まってしまいおあずけに…。そういった家族の協力もあり、買い取りをスタートしてから1年半後、店舗をオープンすることができました(写真1)。

■買い取りをする中で感じたこと

「大切にしていた学生服なので、ごみとして捨てたくない」「誰かに使ってほしいけど、譲り先が見つからない」「かえって気を遣わせちゃうのが嫌で…」など。想いはあるけれど、個人ではそれを次に繋げていくことは難しいということでした。

■大事に保管しておくよりも、大切に着てきたものだからこそ、誰かに使ってもらいたい

学生服としてもう一度活かしてほしい。新品で揃えると高い学生服、誰かの入学準備の役に立ててほしい。このような温かい想いも制服と一緒に受け取っています。大切なものを手放すことは、勇気がいるますが、皆さん「よろしくお願ひします」と私に託してくださいませ(写真2)。

■買い取った学生服

買い取った学生服はクリーニング・洗濯・補修をして店頭に並びます。カッターシャツなどは漬け置きし、襟や袖口はブラシでこすって洗濯機へ。綺麗に見えるシャツの漬け置き液が黄ばんだ茶色になるのも、次に使う子に気持ちよく着てほしいと思う気持ちと相まってウキウキ。体操服のネーム刺繍は、慎重にリッパーで外しながら(写真3)、持ってきてくれ



写真2 制服買取時の聞き取りの様子

たお母さんとの会話を思い出したり、ペンキが付いたジャージがあれば、学園祭楽しんだのね！と感じたり。

次にこの学生服や体操服を着る子が学校生活を楽しく、不便なく送ることができるように。買いに来てくれるお父さんお母さんの手を煩わせることなく、すぐに子どもに着せてあげられるように。これからも、繋いでいただいた学生服をできる限りベストな状態でバトンタッチするお手伝いをしていきたいと思ひます。



写真3 刺繍外し